

## 地域の居場所「まちのひろば」創出に関する取組について（有識者会議用資料）

## 1 「まちのひろば」について

## (1) 「まちのひろば」とは

誰もが気軽に集い、多様なつながりを育む地域の居場所「まちのひろば」

- ◆目的がなくとも、誰もが気軽に集える場である。
- ◆場がある必要がなく、常設である必要もない。(SNS 上のつながりもありうる)
- ◆機能や課題解決につながる活動自体を重視する。



## (2) 行政の関わり方

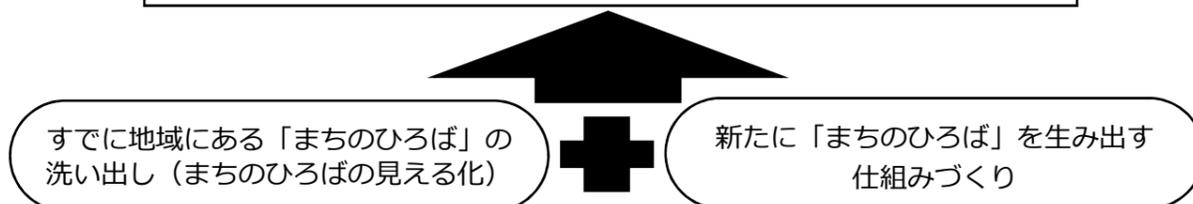
- ◆「まちのひろば」の自主性や自律性を尊重しながら必要な支援を進める。
- ◆行政としてエリアや目標数を設定し、計画的に整備を進めていくものではない。

## 2 「まちのひろば」創出に関する取組＝「まちのひろばプロジェクト」について

本市では「まちのひろば」の創出に向けた行政の取組として、「まちのひろばプロジェクト」を推進

## (1) プロジェクトのイメージ

川崎のまちのそこかしこに「まちのひろば」があふれる  
「市民創発」による暮らしやすい地域の実現を目指す



## (2) 期待される効果

対象	見える化	仕組みづくり
「まちのひろば」の実践者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの活動のPRになり、「まちのひろば」の活性化につながる</li> <li>・「まちのひろば」同士の連携進む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の幅の広がりや回数の増加、新たな活動の可能性が広がる</li> </ul>
新たに「まちのひろば」を実践したい方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたいことの参考としたり、新たな着想を得る契機となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践に向けた手助けとなり、やりたいことが実現しやすくなる。</li> </ul>
一般市民の方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちのひろば」への興味関心をもちやすくなり、「まちのひろば」を利用するきっかけとなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分もやってみよう」という啓発につながる。</li> </ul>

## (3) 具体的な取り組み

見える化	仕組みづくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちのひろば WA プロジェクト</li> <li>・まちのひろばフェス</li> <li>・SNS を活用した広報</li> <li>・各種イベントブースでの広報啓発</li> <li>・おうちでつながる「まちのひろば」</li> <li>・各区における市政だより等での広報 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちのひろば」づくり相談窓口</li> <li>・「公共施設の地域化」</li> <li>・まちのひろばひらきかた手帖の作成</li> <li>・職員プロジェクト</li> <li>・空家活用マッチング制度 等</li> </ul>

## 3 その他の取組（資金支援について）

- (1) 資金支援も含めた庁内外における既存の市民活動等への支援メニューを取りまとめ、支援内容を一覧化し、「つなぐっど KAWASAKI」に掲載。
- (2) 地域における様々な活動を持続可能なものとするため、クラウドファンディングをテーマにした講座を開催し、その内容をまとめた冊子「クラウドファンディングにチャレンジ」を作製

## 4 成果と課題

	見える化	仕組みづくり
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WA プロジェクトに参加されている団体を中心とし、つなぐっど KAWASAKI や、Youtube 「川崎市コミュニティチャンネル」、Instagram 等で「まちのひろば」を紹介するほか、区ごとにマップの作成や独自の取組も進めており、一定程度見える化が進んでいる。</li> <li>・様々な広報・啓発活動の結果、市民が自主的に SNS 等で「#まちのひろば」を活用する事例が出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちのひろば相談窓口や、職員プロジェクトを通じて新たな「まちのひろば」が複数できあがった。</li> <li>・「まちのひろばひらきかた手帖」、「意外と知らない公共施設の柔軟な使い方ガイド」等の冊子が作成され、市民の自発的な取り組みの一助となっている。</li> <li>・「公共施設の地域化」に向けて「市内ガイドライン」が策定され、公共施設が地域化され、新たな「まちのひろば」となった事例が生まれた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い概念を持つ「まちのひろば」について「わかりにくい」という声もあることから、機能や形態に応じた広報等の検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共施設の地域化」に向けて、柔軟な使い方を行うことで適正な管理が難しくなるといった声もあり、進め方に工夫が必要である。</li> </ul>

## 5 今後の方向性 案

## (1) 「まちのひろば」の見える化の更なる推進

市内にある多種多様な「まちのひろば」をさらに見える化することで、更なる「まちのひろば」の創出を促すため、SNS を活用した広報におけるネットワークの構築や、WA プロジェクトについて、より実行力のあるものへと運用の見直しを図る。

## (2) 「まちのひろば」の更なる創出に向けたターゲットと効果的な手法の検討

どの層（家族構成や年齢、まちづくりへの関心度等）にどのような広報や行政支援を行うことによって効果があるのかを、今後実施する市民アンケート等の結果を分析しながら、ターゲットに沿った効果的な手法を探り、今後実施していく。

## (3) 「公共施設の地域化」の更なる推進

公共施設を使った「まちのひろば」がさらに生まれるように、魅力的な事例について発信するとともに、市民からの相談に対しても柔軟に対応できるよう研修の実施等により職員の意識改革を促す。

※ 令和4年8月実施の市民アンケートにて「まちのひろば」創出に向けた基礎資料とするため、地域とのつながりについてのアンケートを実施予定。本検証結果にも反映予定。